

二〇二四年一〇月一三日

二〇二四年一〇月一三日

せせらぎに憩ふ我らに風涼し	澄子
古民家の籬をなせる竹の春	康子
萩に触れ桔梗を愛でて京ひと日	はく子
展がりて起伏をなせる花野かな	澄子
藪茗荷の実は黒真珠神の庭	うつぎ
蕊あまた蒼穹を指す曼珠沙華	むべ
紅葉影くすぐったさう鬼瓦	ぼんこ
秋涼の庵にお薄いただきぬ	むべ
平安を偲ぶ境内桔梗咲く	わかば
句短冊ゆらゆら萩の風通ふ	もとこ
秋まつりばらす櫓の砥の粉散る	えいじ
桔梗の庭に無粋や大鴉	せいじ
漆喰の白壁に映ゆ薄紅葉	康子
御所さんの銀杏なればと拾ひけり	うつぎ
紅白の萩の籬や能舞台	あひる
小参道触るるも風情萩綴る	うつぎ

定例WEB句会みのる選